

【全体概要】

安房地域は歴史のあるショウガ産地であるが、生産が減少傾向にある。おもな栽培品種は形の大きい「近江」「三州」でこれらの栽培面積の増加とともに古くから栽培されていた形が中程度の「中太」は面積が減少している。一方、地元のショウガ加工業者からは、特色ある加工品の素材として在来品種などの地元産のショウガを求める声がある。

このほど、長年ショウガ栽培を行っている生産者の中から房州中太しょうがと思われる品種が見つかり、地元業者の需要もあることから、本事業を活用して、「房州中太しょうが」の栽培特性、加工適性等を明らかにするとともに、地元業者とのマッチングを進め、品質・量ともに十分な農産物を供給できるように生産を拡大し、産地振興を図る。

新品種の概要

「房州中太しょうが」は中ショウガで中太、らくだなどとも呼ばれる。安房地域の総称である「房州」という名がついているように、ショウガの産地である安房地域で長く栽培されてきたが、近江等大ショウガの栽培が盛んになり、消えつつある品種である。

主な取組内容

- 1 ショウガ産地における埋もれた品種の発掘
(房州中太しょうがの発掘)
- 2 貯蔵技術の確立(貯蔵試験の実施)
- 3 品種・技術と産地・実需者とのマッチング活動
 - 1)実需者への産地情報の提供
 - 2)産地への実需情報の提供
 - 3)実需者と産地との情報交換会

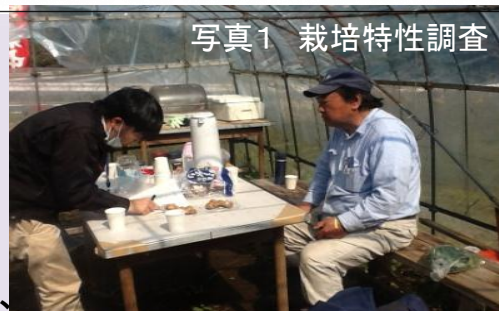
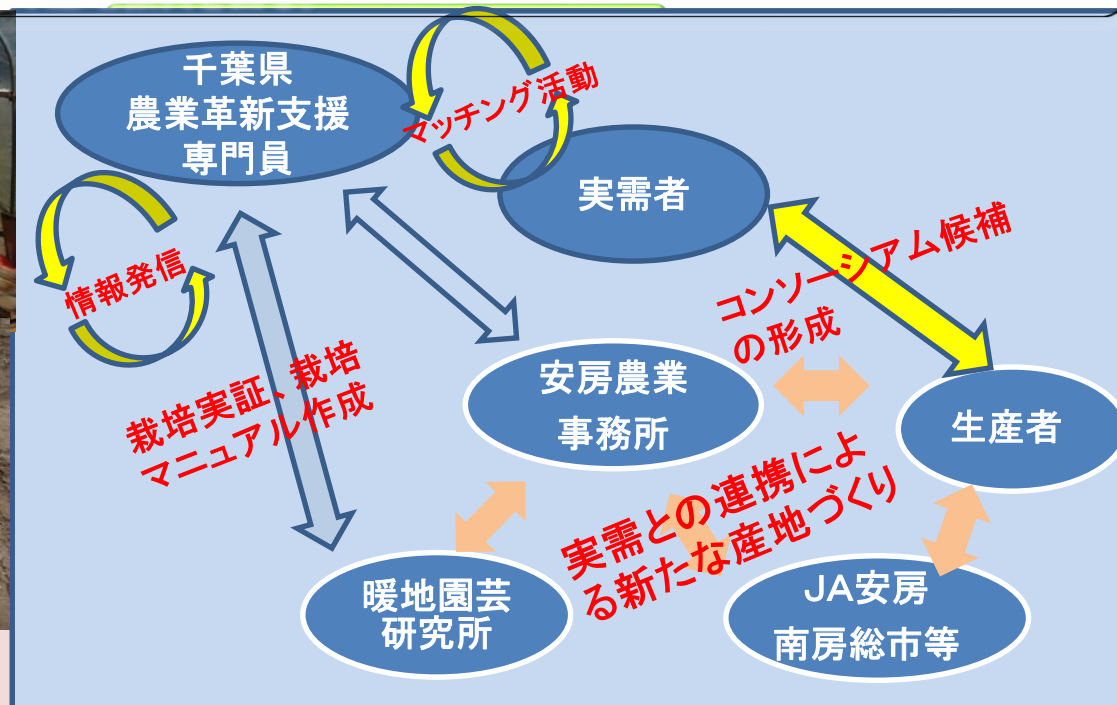


写真1 栽培特性調査



写真2 貯蔵試験



課題と今後の対応

コンソーシアム形成に向けて、生産者・実需者のほか、試験研究機関・JA・市等の関係者を参集し、生産拡大に向けた方策、商品化に向けた加工開発等の検討を行い、関係機関の連携と役割分担の明確化を図る。